

第2学年C組 生活科学習指導案

授業者 稲垣 勇介
研究協力者 中野 良樹
教材分析協力者 長瀬 達也

1 単元名 とびだせ、ふぞくタウン！キラキラたんけんたい

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

1年生での学校探検の際、学校にある部屋、そこにある物やいる人に着目し、「アリーナにはボールがたくさんある」というような、学校はどのような場所なのかに関して気付く姿が見られた。しかし、気付きの分類は見付けた「物」と「人」程度にとどまり、「音楽室の楽器を使って、演奏が上手になりたい」というような、見付けた物や人の特徴、役割に自分を関連付けて考えられた子どもは少なかった。

その後、アサガオの栽培や季節を感じる学習などを通して、「追肥を入れたらしおれている葉が大きく元気になった」というような、自分の働きかけと対象の様子を関連付けたり、見た目や感触などによる働かせた感覚に基づいて気付きを分類したりして考えることが期待できる学習を経験してきた。しかし、2年生になった今も、「葉が大きい」というような、対象一点のみの様子を捉えることから抜け出せていない子どもはまだ多い。気付きの質を高めて学習を進めていくには、分類や関連付けをして考える経験やそのよさの実感がまだ十分ではないと考える。

(2) 単元について

本単元は、学習指導要領における学習内容(3)及び(8)を受けて設定した学校周辺を探検する単元である。地域の場所と自分の関わりを見付け、地域にある様々な場所やそのよさに気付き、それらに親しみや愛着をもって地域の一員として安全で適切に生活しようとする資質・能力を引き出すことを目指す。

探検活動で見付かるものは多岐にわたり、それらのものへの感じ方は人により様々である。気付きの共有をする際、「花」や「店」などの対象の種類や、「耳」や「鼻」、「心」などの働かせた感覚で気付きを分類することで、気付きを振り返る基となる視点(学びのものさし)は多様になる。それにより、「花ばかり見ていたから、次は店を探したい」「あの場所ではどんな音が聞こえるかな」というような、気付きの度合と新たな思いや願いの自覚である、学びの到達度を見定める姿につながるかと考える。本単元では、学びの到達度をものしりレベルと名付けて進める。また、地域のよさを捉えることは、「いろいろな店があるから、買い物をするのに便利」「いろいろな種類の音が聞こえてくる楽しい地域」というような、自分の生活にどのような影響があるのかを考える、地域と自分の関連付けが必要になる。分類や関連付けをして考えることによって、自分が追究したい対象や感覚を定めて本校周辺の地域に詳しくなっていくとともに、よさを捉えて愛着もより深まっていくことにつながると期待する。

本校の子どもは秋田市全域から通学してきている。自分の生活圏ではない本校周辺の地域のよさを捉えて愛着をもてるようにすることが本単元のねらいであるが、そこには分類や関連付けをして考える過程が伴う。それらの考え方のよさを実感しながら地域について追究していく姿を期待し、本単元を設定した。

(3) 指導について

単元の導入では、自分の生活圏である地域の様子を伝え合う場を設ける。各地域の様子は様々であるが、本校周辺はどうかの問いかけ、探検意欲を引き出す。さらに、本校周辺について、「いろいろな花がある地域だよ」、「どのような店があるか調べたい」などのような、調査する対象の種類に着目した思いや願いをもてるように、各地域の様子にふれることで学びのものさしとなる大まかな探検の視点を確認する。

単元に探検を2回位置付ける。気付きを振り返る視点(学びのものさし)を得ることができるように、1回目の探検を終えた後に気付きを共有する場を設け、気付きの分類を支援する。見付けた対象の種類や、「そばのおいしいそうな香り=鼻」というような、働かせた感覚で気付きを分類することで、探検前は大まかであった視点がより明確になる。その視点を基に、必要感をもって2回目の探検ができるように、自分の気付きはどの対象の種類や感覚が多いのか少ないのか、次は何に着目して調べたいのかという、ものしりレベルの到達度に照らして新たな思いや願いを確かめる場を設ける。

探検後は、得た気付きを地域のよさとしてまとめる時間を確保する。自分との関わりに着目して地域のよさを考えられるように、見付けたものが自分にどのような影響があるのかという視点を引き出し、それを基に考えるよう声をかける。

終末では、自分が気付かなかった地域のよさを感じられるように、よさを伝え合う場を設ける。地域に詳しくなった自分や愛着をもっている自分に気付くことができるように、探検前や後に設けて考えた自分のものしりレベルを比較しながら活動を振り返る場を設ける。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 本校周辺の地域には、様々な場所があることや、そのよさに気付いている。〈ウ-1,エ-1・2〉
- (2) 見付けたものを分類したり地域の場所を自分の生活と関連付けたりして考えながら、気付いた地域のよさが伝わるように表現内容や方法を工夫して伝えている。〈カ-1〉
- (3) 本校周辺の地域の場所に親しみや愛着をもち、地域の一員として安全で適切に生活しようとしている。〈a-1,ウ-2,エ-3〉

4 単元の構想 (総時数14時間)

こんにちは ふぞくしょうがっこう
・学校生活を支えている人々や友達、施設に気付く。

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価(本校の資質・能力との関連)
1	(1) 自分の生活圏である地域にあるものを紹介する。 ・ホテルがいる。 ・ケーキ屋さんがある。 — 学習課題 — ふぞくタウンは、どんなところかな。たんけんに行こう。	・本校周辺の地域への関心を高められるように、各々が住む地域にあるものに着目し、本校周辺には何があるか問いかける。	・地域には、既知や未知のいろいろなものがあることに気付いている。(エ-2)
2	(2) 本校周辺の地域に関するものしりレベルを考え、探検に向けて生まれる思いや願いを確認する。 ・家の近くにいる虫が、学校の近くにもいるかな。 ・甘い物を売っているお店を探したい。	・調査する対象の種類に着目した思いや願いをもてるように、各々が住む地域にあるものにふれながら学びのものさしとなる大まかな探検の視点を確認する。	・各地域の様子を基に、本校周辺の地域の探検に向けて自分の思いや願いをもっている。(エ-2)
3 4 5	(3) 全員で本校周辺の地域を探検し、見つけたものや気付いたことをまとめる。	・探検後にも画像から地域に関する気付きを得られるように、探検時のタブレット端末での撮影の仕方と使う際の約束事を確認する。	・地域にあるものを見つけたり、気付いたことをまとめたりしている。(エ-2・3)
6 7 本時	(4) 探検で気付いたことや思ったことを紹介してその分類をし、ものしりレベルを考える。	・気付きを振り返る際に対象の種類視点(学びのものさし)に着目できるように、花や飲食店など見つけたものの種類での分類とその名付けの支援を行う。	・対象の種類や働かせた感覚の視点に着目して、地域についての気付きの度合を自覚している。(エ-2, カ-1)
8	(5) 班ごとに本校周辺の地域を探検する計画を立てる。	・探検の際の視点が同じ人と探検できるように、思いや願いが似た子どもで班を構成する。	・探検の視点を持ち、班の子どもと話し合いながら探検計画を立てている。(カ-1)
9 10 11	(6) 班ごとに本校周辺の地域を探検し、見つけたものや気付いたことをまとめる。	・自分との関連付けにつながるように、見つけたものに五感で働きかけて思ったことを記録するよう声をかける。	・地域にあるものを見つけたら、気付いたことをまとめたりしている。(エ-2・3)
12 13	(7) 各自で本校周辺の地域のよさをまとめ、発表の準備をする。 ・虫や花など自然あふれる地域で心が癒される。 ・買い物ができるお店がたくさんある便利な地域だ。	・地域のよさを自分の生活と関連付けて考えられるように、見つけたものが自分にどのような影響があるのかを考える場を設ける。	・探検で見つけたものを自分の生活と関連付けて考えながら、地域のよさに気付いている。(ウ-1, エ-1)
14	(8) 本校周辺の地域のよさを発表し、ものしりレベルを考える。 ・休みの日に家族で虫探しに来たい。 ・家の近くは、お店の数は少ないけど、何でも売っている大きいお店がある。	・本校周辺の地域に詳しくなった自分や愛着をもっている自分に気付くことができるように、探検前の自分のものしりレベルを比較しながら活動を振り返る場を設ける。	・情報を伝え合い、地域のよさに気付いたり、地域に愛着をもったりしている。(ウ-2, エ-1, カ-1)

◎本単元で育む主な資質・能力
地域の場所と自分の関わりを見付け、地域にある様々な場所とそのよさに気付く。(ウ-1, エ-1)
地域の場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりする。(ウ-2, エ-3)

ふれあえ、ふぞくタウン！ポカポカたんけんたい
・地域にある公共物、公共施設やそれらを支えている人々に気付く。

5 本時の実際（7/14）

(1) ねらい 探検で見付けた対象の種類や働かせた感覚に着目し、見付けたものや気付いたことを伝える活動を通して、地域についての気付きの度合を自覚することができる。
 (エ-2,カ-1)

(2) 展開 ○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
5分	① 本時の学習のめあてを設定する。 ・前はレベル1だった。 ・探検してマスターに近付いた。 ・今はレベル何くらいかな。 学習のめあて としておきの発見を伝えて、今の自分のものしりレベルを確かめよう。	・見付けたものを黒板上で動かしながら分類できるように、前時に書いた見付けたものについてのカードを準備する。 ・地域についての気付きを振り返る意欲を引き出すために、探検前の地域についての自分のものしりレベルを確認するよう声をかける。
20分	② 探検での気付きを発表し、見付けたものや気付いたことを分類して考える。 ・たんぼば→「花」 ・花のいい香りがした。→「嗅覚」 ・そば屋→「食べ物屋」 →「食べられる場所」 ・そばを食べると、おいしくて幸せになれる。→「味覚」 ・砂場→「公園」→「遊べる場所」 ・ざらざらした砂が気持ちよくて楽しい気分になる。→「触覚」	○気付きを振り返る際に対象の種類視点（学びのものさし）に着目できるように、花や飲食店など見付けたものの種類での分類とその名付けの支援を行う。 ○気付きを振り返る際に働かせた感覚視点（学びのものさし）に着目できるように、発表された気付きについて働いている感覚を確認する。 ・思いや願いを確かめる際に次時以降考えていく地域のよさに着目できるように、見付けた場所で自分ができることやその場所の自分へのよい影響についての気付きがあれば意図的に取り上げ、その視点を取り入れる。
13分	③ 分類して考えた気付きを基に自分の気付きを振り返り、ものしりレベルを考える。 ・建物ばかり調べていて花があることを忘れていた。 ・店は他にもあるけど、自分は食べ物屋ばかり探していた。 ・公園の他にも遊べる場所がありそうな気がする。	・自分なりの分類をして考えることで気付きを振り返られるように、学級全体での分類で視点を固定しすぎずに幅をもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 対象の種類や働かせた感覚の視点に着目して、地域についての気付きの度合を自覚している。 (エ-2,カ-1) (発言・シート) </div>
7分	④ 自分の思いや願いを確かめる。 ・どんな花があるか探したい。 ・次はスーパーを探そう。 ・もっと遊べる場所を探したい。	・2回目の探検に必要感がもてるように、自覚した気付きの度合を基に、探検でどの視点に着目して調べたいかを考えるよう声をかける。